

ZEPHYROS

ゼフュロス No.19

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



《聖杯》 1430年
ズーストハルツ教区
Kirchenkreis Südharz

聖杯－中世の金工美術

ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による

会期: 2004年6月29日(火)～8月15日(日)

主催: 国立西洋美術館／ザクセン・プロテスタント教会／ザクセン・プロテスタント教会美術文化財団／(財) 西洋美術振興財団

本展は、12世紀から16世紀初頭、すなわちロマネスク時代から後期ゴシック時代の金細工師が制作した典礼具63点を、聖杯(カリス)と聖皿(パテナ)を中心にご覧いただくという企画です。

聖杯と聖皿は、最後の晩餐に由来するミサあるいは聖餐式に用いられるもので、教会の典礼具の中でもとりわけ重視されています。中でも神学上キリストの血と同一視される葡萄酒のための聖杯は、酒杯としての実用的な目的のみによって制作されたわけではありません。中世の聖杯は建築や植物をかたどっ

聖杯-中世の金工美術

た枠取りの中に、さまざまな聖書場面や聖人像、寄進者像などを表わすことで典礼の由来と意味を表わし、ちょうど当時の教会建築のように、ひとつの小宇宙として造型されていました。

金細工師たちはそのような聖杯を鍍金された銀によって、鍛金、彫金、エマイユ、ニエロ、鑄造といった金工技法の粋を尽くして造型し、宝石をもって飾りました。



《聖杯》14世紀前半
宝飾品：14世紀中葉
ズュートハルツ教区
Kirchenkreis Südharz

貴金属を扱う金細工師たちの金工作品は中世を通じてもっとも高雅な美術と見なされていましたが、出品作には、彼らが単に器物を制作するだけではなく、画家や彫刻家と同様、描写美術にも通じていたことをご覧いただけるかと思います。事実、金工師たちが金属の表面に図像を線刻する技術は、15世紀にいたって紙が普及するにつれ、銅の板に線刻を施しそれを紙に印刷する美術、すなわち銅版画の出発点ともなったのです。

本展の貴重な金工美術は美術館ではなく、ドイツ東部のザクセン＝アンハルト州を中心とする、プロテスタントの諸教会から出品されたもので、現在でも重要な聖餐式の時に使用されています。この地方はマルティン・ルターが活動した宗教改革運動の中核地帯だったのですが、宗教改革者たちはこうした中世の典礼具の意義を認め、今日まで教会で使用し伝えて来ました。本展は中世の金工美術をテーマとする、日本では初めての試みですが、出品作が制作された当時とほとんど同じ場所で、同じように使用され続けているものばかりだという点は、本展に、さらに重要な美術史・文化史的意味を加えていると言ってもよいでしょう。

(主任研究官 田辺 幹之助)



《聖皿》14世紀前半
ズュートハルツ教区
Kirchenkreis Südharz

◆「聖杯-中世の金工美術展」観覧料

一般	850円(600円)
大学生	450円(250円)
高校生	250円(100円)
※ () 内は20名以上の団体割引料金	
中学生以下	無料

建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館

会期: 2004年6月29日(火)~9月5日(日)

the national museum of western art, tokyo

Fun with Collectionは、国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、子どもから大人までを対象に、美術作品をより身近なものとして理解し、楽しんでもらうことを目的とし



本館2Fの回廊型ギャラリー

ていますが、今回は美術作品ではなく、それらが展示される建物をテーマにします。

美術館で作品を鑑賞するとき、作品から受ける印象は、作品と鑑賞者を取り巻く様々な要素によって変わります。例えば建築も、作品鑑賞に影響を与えるものの一つです。同じ作品でも、展示される空間や照明によって異なる印象を受けることがあるでしょう。今回の企画は、作品と私たちを包み込んでいる建物そのものを楽しむものです。

今から45年前、当美術館で最初に建てられた本館は、20世紀を代表するフランスの建築家ル・コルビュジエが設計しました。彼は、建物の尺度に身体の比率（モデュロールと命名する）を採用したり、近代建築のための五原則を提唱しました。本企画では、こうしたル・コルビュジエの考えによって本館に実現された独特な空間や、本館の様々な造作をパンフレットにまとめて紹介します。また、本館の建物をより深く楽しみたい方のために、現在は立ち入り禁止となっている部分も含めた、解説付きのツアー（予約制/人数限定）



本館2Fへ向かうスロープから見た19世紀ホール

や、建築に関連した創作・体験プログラム、レクチャーなどを行います。さらにル・コルビュジエと本館に関連する資料も新館2階で展示します。この機会に、ル・コルビュジエの美術館建築の魅力に触れていただければ幸いです。プログラムの詳細は本企画のチラシをご覧ください。

(主任研究官 寺島洋子)

◆常設展観覧料

一般……………420円(210円)
大学生……………130円(70円)
高校生……………70円(40円)

※()内は20名以上の団体割引料金
中学生以下……………無料

2003年度新収作品

the national museum of western art, tokyo

17世紀に東フランスのロレーヌ地方に生まれたジョルジュ・ドラトゥールは、一旦は人々の記憶から消えたものの、20世紀になって劇的な形で再発見され、現在では世界的な名声を得ている画家です。とりわけ、蠟燭の光に照らし出された神秘的な画面を多



ジョルジュ・ドラトゥール
《聖トマス》

1624年頃
油彩、カンヴァス 64.6×53.9cm

く残したところから「夜の画家」とも呼ばれ、現在残る真作が僅か40点にも満たない数であることから、その希少性もあいまって、しばしば同じ17世紀のオランダ画家フェルメールと比較されます。実際、パリのルーヴル美術館に真作6点、ニューヨークのメトロポリタン美術館に2点があるのを別にすれば、ラ・トゥールのオリジナルとされる作品を複数所蔵している美術館は殆んどありません。《聖トマス》はまさしく、こうした再発見史の最も新しいページを飾る作品で、その存在が世に知られたのは僅か十数年前の1987年のことでした。

この絵に描かれているのは、キリストの12使徒の一人で、インドへ伝道に赴き、異教の人々に槍で突かれて殉教した聖トマスです。ひげを蓄えた壮年の人物として描かれた聖人は、その持物である槍（十字架上でローマ兵の槍に突かれて絶命するキリストの隠喩。キリスト復活の際に、トマスはそれを疑い、脇腹の槍傷を触って確かめるという聖書中の記述もまた有名です）を手にしています。表現は一見荒々しく、直接的な印象を与えますが、皮膚の皺一本一本まで克明に描写する徹底した写実と同時に、幾何学的に単純化された独特の形態、洗練された光の取り扱いなどは、ラ・トゥールの真作のみに見られる特徴といえます。

（主任研究官 高橋明也）

「聖杯-中世の金工美術」展に関連して下記プログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 6月29日(火) 13:30~15:00 (6月15日締切)
ヨハン・ミヒャエル・フリッツ (前ハイデルベルク大学教授)
「中世の金細工師と金工美術(仮称)」
ベッティナー・ザイデルヘルム(ザクセン・プロテスタント教会美術文化財監督)
「ザクセン・プロテスタント教会の美術文化財(仮称)」
- ② 7月17日(土) 14:00~15:30 (7月3日締切)
越 宏一(東京芸術大学教授)
「中世美術の中の金工(仮称)」
- ③ 7月31日(土) 14:00~15:30 (7月17日締切)
江藤直純(ルーテル学院大学教授/日本ルーテル神学校校長)
「中世末期から初期近世にかけての典礼と聖杯」

会 場	講堂
定 員	145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

◆ギャラリートーク

当展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日にギャラリーで解説を行います。

日 時: 7月16日(金)、7月30日(金)、8月6日(金)、8月13日(金)
毎回18:00~(約40分)
*展覧会観覧券が必要です。

集合場所: 展覧会会場入口ロビー(18:00)

◆レクチャー・コンサート (7月9日締切)

「グレゴリオ聖歌とドイツ・コラルの連続性」

日 時: 7月23日(金) 18:00~19:30 (17:30開場/18:00開演)
企画・トーク: 瀧井敬子(東京芸術大学演奏芸術センター助手)
演 奏: トランペット=杉本峯夫(東京芸術大学教授)
合 唱: 東京芸術大学有志

場 所	展覧会会場入口ロビー
定 員	100名(無料、ただし展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

◆記念講演会・コンサート応募方法

応募方法	往復はがきに、希望日、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、それぞれ下記の宛先にお申し込みください(締切日の消印有効)。応募者多数の場合は抽選になります。
宛 先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「聖杯-中世の金工美術」展講演会係 または、 国立西洋美術館「聖杯-中世の金工美術」展コンサート係

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2004年5月～2004年10月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日

土日・祝日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

5
MAY

ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 **生きた証—古代ローマ人と肖像**
(企画展示室) 最終日5月30日(日)



ファウストとハムレット：ドラクロワ・ロマン派石版画の魅力
(新館2F版画素描室) 最終日5月30日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

6
JUNE

聖杯-中世の金工美術
ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による
(企画展示室) 6月29日(火)～8月15日(日)

Fun with Collection 2004 建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
6月29日(火)～9月5日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

7
JULY

聖杯-中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による
(企画展示室) 6月29日(火)～8月15日(日)



Fun with Collection 2004 建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
6月29日(火)～9月5日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8
AUGUST

聖杯-中世の金工美術
ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による
(企画展示室) 最終日8月15日(日)

Fun with Collection 2004 建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
6月29日(火)～9月5日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

9
SEPTEMBER

Fun with Collection 2004 建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
最終日9月5日(日)

臨時休館
(館内整備)

9月6日(月)

9月9日(木)

マティス展 (企画展示室) 9月10日(金)～12月12日(日)

オランダ・マニエリスム版画展(仮称)
(新館2F版画素描室) 9月10日(金)～12月12日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

10
OCTOBER

マティス展 (企画展示室) 9月10日(金)～12月12日(日)

オランダ・マニエリスム版画展(仮称)(新館2F版画素描室) 9月10日(金)～12月12日(日)

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

● 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

● 開館時間

通常…午前9時30分～午後5時(ただし、春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの期間=午前9時30分～午後5時30分*平成16年は6月29日から12月12日まで)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
(入館は閉館の30分前まで)

● 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)

● 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)

● お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさと色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第19号

編集・発行 国立西洋美術館/平成16年5月20日(年4回発行)
協力(財)西洋美術振興財団
印刷(株)アイネット